

作る人と届ける人の出会いの一步!

# トラックキャンペーンに協賛しました

## Report

### ■“3つの輪”への序幕

街を走る車の中でもひととき目を引く赤かぶを全身にあしらったトラック『らでいっしゅ号』。これまで新聞の折込みチラシなどによる入会キャンペーンを行ってきましたが、この目立つ『らでいっしゅ号』こそらでいっしゅ認知度upへの旗印! ととらえ届ける人の会“Radicleの会”が初めて街頭キャンペーンを企画しました。らでいっしゅ号を街に停め、パンフレットとお試しサンプルとして“人参”を詰めて配布するもので、場所は各配送代理店が担当地域の中から、駅前広場や公園などを選定しました。

このキャンペーンにRadicleの会からRadixの会への協賛の依頼がありました。「生産者さん自身も加わっていただけたらより強力なアピールとなる」。そこで、農産会員のみなさまへの募集を行ないました。当日ご参加いただいたのは関東ブロック7グループ15名、中部ブロック1グループ1名、WESTブロック1グループ5名。ありがとうございます!(応募総計は13グループ28名。場所や時間の都合でご参加を見送っていただいた方もいらっしゃいます)

これまで“らでいっしゅぼーや”“Radicleの会”と共に「3つの輪」としての活動を目指して参りましたが、2002年度はRadicleの会との主だった活動を形にすることが出来ませんでした。今回、作る人と届ける人が直接出会ったことが、より密な顔の見える関係とさまざまな消費者への働きかけへの芽吹きとなりそうです。(※)

(事務局・島田)

“トラックキャンペーン”それは道行く一般の方々にらでいっしゅぼーやを知ってもらう街頭キャンペーン。3月16日、首都圏、神奈川、中部、大阪の4センターの地区で一斉に開催しました。このキャンペーンにRadixの会農産部会員9グループ21名の方々が参加してくださいました。

### ■アツという間の藤沢報告

桜にはチト早い花曇りの湘南藤沢駅。我々神奈川キャンペーン部隊は、今回のリーダー役・市川紀さん(らでいっしゅぼーや代理店・(株)ラミックス代表)、らでいっしゅぼーや神奈川センター営業責任者・田原<sup>つよし</sup>さんの号令のもと、道行く人への呼びかけを開始した。Radicleから8名、Radixからの応援メンバーは、黒崎有機栽培会の山田新一さん、原田智さんと、相模原の笹野哲夫さんの3名だ。

場所はJR南口2階正面の絶好地、日曜だけあって人波絶えず、キャンペー

ンは長蛇の列。生産者の3名は話しかけながらサンプルをお渡しする役。お渡しするにんじんを袋詰めするスピードが追いつかない忙しさで、予定の400個の配布はアツという間に終了した。

なわけでも感慨もなかったが、楽しく駅前のお困り感を満喫(?)し、みんなでニコリ記念写真をパチリ。楽しい反省会はいづかな!? (事務局・竹内)



### ■思わぬ出会いの船堀報告

配送代理店アクシスさんは、当初4箇所を予定していましたが開催許可が下りず、都営新宿線船堀駅前のみでの配布に。朝5時(!)に山形県高島を出発してきたファーマーズ・クラブ赤とんぼの4名、アクシススタッフ11名、らでいっしゅぼーや企画部長藤巻啓二氏、首都圏センター副センター長市川実氏が参加。トラックは馬場前ロータリーからやや離れたところ。各自両手いっぱい紙袋を持ち分散して配布。

アクシスさんは私の家にも藤巻氏、市川氏の自宅へもお届けくださっていて、しかも同じ方が担当だということが判明! 初顔合わせに加えて予想外の感動となりました。ファーマーズ・クラブ赤とんぼの皆さんにとっても同じだったようです。往復8時間に対し配布は1時間。なんと申し訳ない気持ちでしたが、「らでいっしゅの顔として最前線にいる彼らに会えたのは大きい。作る我々と届ける彼らが会って話せる機会がもっと増え、お互いの理解が深まれば本当の顔の見える関係になるよね」とのこと。道行く人々に配るという体験もとても楽しかったと言っていました。みなさん、おつかれさまでした。(事務局・島田)



### ■朝から夕までの中部報告

中部センターのトラックキャンペーンへ参加してきました。Radixの会からはゆき伊賀の里の福広博敏さんと私の2人がピースグリーンの皆さんと会場でもある新瀬戸駅前前で合流してキャンペーン開始。途中から強力な助っ人、らでいっしゅぼーや中部センターの井口幸久センター長と息子の亮くんも加わっての配布。昼からは上社駅へ場所を移し、夕方には全て配り終えました。終了後のお疲れ様会では、美味しい鍋焼きうどんを食しながら、福広塾

(?)と名付けた環境保全型農産物の実状と問題点を福広さんが熱く語られ、ピースグリーンの皆さんは新鮮な話だったようです。Radicleの会・Radixの会の個人同士が膝を交えながら情報交換できる、このような機会を多く作っていただければ、更に良い輪の広がりができるなと感じました。(事務局・鈴木)

